

【指標・目標設定(年度計画)の概要】

団体名	株式会社大阪港トランスポートシステム	所管所属名	大阪港湾局
-----	--------------------	-------	-------

1. 当該団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

本市臨海部における交通需要に対応する輸送手段となる鉄道路線として整備する北港テクノポート線のうち、2025年日本国際博覧会の会場となる夢洲地区への主要な輸送手段となる鉄道路線である南ルート部分を本市の計画に則った適切な時期までに確実に建設し開業させること。

中期目標		年度計画					
2. 中期目標・年度計画における外郭団体の事業経営についての目標							
【R2年度】 指標:資金調達スキーム(事業収支に係る関係者間での役割分担(費用分担))の確定 指標:事業実施(インフラ部)に係る鉄道事業法上の工事計画(鉄道事業計画)の変更手続きの完了 【R3年度以降】 指標:「事業費をベースとした事業進捗率」 ----- 【参考1】期間 令和2年9月1日から令和7年3月31日 ----- 【参考2】行政目的又は施策によって実現しようとする状態を示す指標及び目標(※大阪市) <table><tr><td>指標</td><td>事業費をベースとした事業進捗率</td></tr><tr><td>目標値</td><td>100%</td></tr></table> ----- 【参考3】外郭団体の事業経営の具体的な内容 【R2年度】 ・過去に策定された事業収支について検討のうえ関係者間での調整を行い、資金調達スキームを確定させるとともに事業実施(インフラ部)に係る鉄道事業法上の工事計画(鉄道事業計画)の変更について、国土交通省との協議を経て、認可にかかる申請を行い、その認可を得ること 【R3年度以降】 ・R2年度に変更する鉄道事業計画に則った着実な工事の推進に取り組むこと		指標	事業費をベースとした事業進捗率	目標値	100%	指標Ⅰ	事業費をベースとした事業進捗率
		指標	事業費をベースとした事業進捗率				
		目標値	100%				
目標値	R4	評価対象期間					
	12.1%	令和4年4月1日から令和5年3月31日					

【指標・目標設定(年度計画)の概要】

団体名	株式会社大阪港トランスポートシステム	所管所属名	大阪港湾局
-----	--------------------	-------	-------

3. 「事業経営評価等に関する指針」において年度計画に定めることとした財務運営についての目標			4. 所管所属の見解													
指標Ⅰ	年度末流動資産額 (現預金及び有価証券)	(指標の説明) ・指標Ⅰ「現預金及び有価証券の5億円以上の確保」 →本指標では、OTSが事業を適切に継続していくため5億円以上の資金を確保することとしている。その内訳は、資産取得にかかる借入金返済、不動産事業にかかる土地賃貸料、固定資産税、施設管理費用や人件費等の固定費約5億円であり、この指標を満たしていることが、安定的な会社経営に繋がることから、指標として設定したものである。 ・指標Ⅱ「北港テクノポート線に係る建設費用」 →本指標では、OTSが今後、北港テクノポート線を2024年度に開通させるためのインフラ外部整備を行うにあたり、建設費用を230億円に抑えることとしている。 北港テクノポート線の整備については多額の建設費用を必要とすることから、年度毎の建設費を基に算出した本指標により適正な監理を行っていく必要があるため。 指標Ⅲ「トラックターミナル事業における施設平均稼働率」 →北港テクノポート線のインフラ外部建設費用を借り入れるにあたっては、主要事業の一つであるトラックターミナル事業における確実な収益確保が必要なため、95%以上の施設平均稼働率の確保を指標として設定したものである。	【事業経営の指標】 団体は、北港テクノポート線のうち、2025年日本国際博覧会の会場となる夢洲地区への主要な輸送手段となる鉄道路線である南ルート部分を本市の計画に則った適切な時期までに確実に建設し開業させるためインフラ外部整備を担っている。その目標を達成させるために、令和3年度以降から本格化するインフラ外整備工事に向けて、鉄道事業法上の許可・認可を得るとともに、工事等については、建設費をベースとした年度毎の事業進捗率を指標に設定し取り組むものである。 本市としても、これら指標に基づき団体が取組を進めていくことが、本市目標の達成に繋がるものと考えており、団体の指標は妥当であると考えている。													
目標値	R4 令和4年度末流動資産：現預金及び有価証券5億円以上															
指標Ⅱ	北港テクノポート線に係る建設費用		【財務運営の指標】 団体は、本市行政目的の達成に向け、安定的な財政基盤を確保すべく、以下の指標及び目標値を設定している。 ・年度末流動資産のうち、現預金及び有価証券(5億円以上) ・OTSが整備する北港テクノポート線に係る建設費用(230億円以内) ・トラックターミナル事業における施設平均稼働率(95%以上) (・トラックターミナル事業における既設施設の改修)													
目標値	R4 工事等委託費(詳細設計、軌道材料購入等):24.8億円以内		団体が掲げるこれら指標については、本市行政目的の達成に向けたものとなっており、 ・団体が安定的な経営を継続することができる資産を確保していること、 ・北港テクノポート線の整備に係る建設費用について、年度毎の目標を設定した適切な監理を行っていくこと、 ・主要事業の一つであるトラックターミナル事業において、安定的な収益を確保すべく95%以上の高稼働率を維持していくこと、 これら指標の達成により、本市目標の達成に向けた安定的な団体運営が可能になると考えている。													
指標Ⅲ	トラックターミナル事業における施設平均稼働率															
目標値	R4 施設平均稼働率95%以上															
			(参考)北港テクノポート線に係る年度毎の建設費 <table><tr><th>年度</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>計</th></tr><tr><td>建設費</td><td>3.2億円以内</td><td>24.8億円以内</td><td>28.8億円以内</td><td>173.2億円以内</td><td>230億円以内</td></tr></table>		年度	R3	R4	R5	R6	計	建設費	3.2億円以内	24.8億円以内	28.8億円以内	173.2億円以内	230億円以内
年度	R3	R4	R5	R6	計											
建設費	3.2億円以内	24.8億円以内	28.8億円以内	173.2億円以内	230億円以内											

【中期計画の概要】

団体名	株式会社大阪港トランスポートシステム	所管所属名	大阪港湾局
-----	--------------------	-------	-------

1. 当該団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

本市臨海部における交通需要に対応する輸送手段となる鉄道路線として整備する北港テクノポート線のうち、2025年日本国際博覧会の会場となる夢洲地区への主要な輸送手段となる鉄道路線である南ルート部分を本市の計画に則った適切な時期までに確実に建設し開業させること。

中期目標		中期計画				
2. 期間						
令和2年9月1日から令和7年3月31日		令和3年4月1日から令和7年3月31日				
3. 外郭団体の事業経営の具体的な内容						
R2年度に変更する鉄道事業計画に則った着実な工事の推進に取り組むこと		○大阪市及び鉄道運行者と協力し、北港テクノポート線のうち南ルート部分（コスモスクエア～夢洲間）の2024年度開業に向けた鉄道施設の整備 ○鉄道整備に係る安定・確実な資金の調達、返済計画の策定 【鉄道事業法】 事業許可関係 ・2021年度から2024年度にかけ、事業基本計画変更申請、線路使用条件申請等について、国との事前協議を経て、その認可を得ること。 施行認可関係 ・2021年度から2022年度にかけ、電気設備等にかかる工事計画の変更等についてその認可を得、2024年度の開通に向け関係先との協議及び各種手続きを進めていくこと。 【設計・工事】 ・2021年度から2024年度にかけ、大阪市からの負担金等及びJRTT（独立行政法人鉄道・運輸施設整備支援機構）からの財政投融资（借入れ）資金の管理及び、工事委託先の工程管理を着実にやっていくこと。				
4. 中期目標・計画（期間）における外郭団体の各事業年度の事業経営についての目標						
【指標の例】 事業費をベースとした事業進捗率		指標Ⅰ	事業費をベースとした事業進捗率			
【参考】行政目的又は施策によって実現しようとする状態を示す指標及び目標（※大阪市）		評価対象期間	令和3年4月から令和7年3月			
指標	事業費をベースとした事業進捗率	目標値	R3	R4	R5	R6
目標値	100%		1.3%	12.1%	24.6%	100%

【中期計画の概要】

団体名	株式会社大阪港トランスポートシステム	所管所属名	大阪港湾局
-----	--------------------	-------	-------

5. 「事業経営評価等に関する指針」において中期計画に定めることとした各事業年度の財務運営についての目標						6. 所管所属の見解
指標Ⅰ	年度末流動資産額（現預金及び有価証券額）					【事業経営の指標】 団体は、北港テクノポート線のうち、2025年日本国際博覧会の会場となる夢洲地区への主要な輸送手段となる鉄道路線である南ルート部分を本市の計画に則った適切な時期までに確実に建設し開業させるためインフラ外部整備を担っている。 その目標を達成させるために、令和3年度以降から本格化するインフラ外整備工事に向けて、鉄道事業法上の許可・認可を得るとともに、工事等については、建設費をベースとした年度毎の事業進捗率を指標に設定し取り組むものである。 本市としても、これら指標に基づき団体が取り組みを進めていくことが、本市目標の達成に繋がるものと考えており、団体の指標は妥当であると考えている。 【財務運営の指標】 団体は、本市行政目的の達成に向け、安定的な財政基盤を確保すべく、3つの指標及び目標値を設定している。 ・年度末流動資産のうち、現預金及び有価証券額（5億円以上） ・OTSが整備する北港テクノポート線に係る建設費用（230億円以内） ・トラックターミナル事業における施設平均稼働率（95％以上） 団体が掲げるこれら指標については、本市行政目的の達成に向けたものとなっており、 ・団体が安定的な経営を継続することができる資産を確保していること、 ・北港テクノポート線の整備に係る建設費用について、年度毎の目標を設定した適切な監理を行っていくこと、 ・主要事業の一つであるトラックターミナル事業において、安定的な収益を確保すべく95％以上の高稼働率を維持していくこと、 としている。 これら指標の達成により、本市目標の達成に向けた安定的な団体運営が可能になると考えている。
(指標の説明)	本指標では、OTSが事業を適切に継続していくため5億円以上の資金を確保することとしている。					
目標値	R3	R4	R5	R6		
	5億円以上	5億円以上	5億円以上	5億円以上		
指標Ⅱ	北港テクノポート線に係る建設費用					
(指標の説明)	本指標では、OTSが今後、北港テクノポート線を2024年度に開通させるためのインフラ外部整備を行うにあたり、建設費用を230億円に抑えることとしている。					
目標値	R3	R4	R5	R6		
	3.2億円以内	24.8億円以内	28.8億円以内	173.2億円以内		
指標Ⅲ	トラックターミナル事業における施設平均稼働率					
(指標の説明)	北港テクノポート線のインフラ外部建設費用を借り入れるにあたっては、主要事業の一つであるトラックターミナル事業における確実な収益確保が必要なため、95％以上の施設平均稼働率の確保を指標として設定したものである。					
目標値	R3	R4	R5	R6		
	95％以上	95％以上	95％以上	95％以上		